

2026年3月14日配布

第387回山口西田読書会（2026年3月7日開催）のプロトコル

行武要記

## 1 テキスト

『働くものから見るものへ』\*1「知るもの」「四」の第1段落346頁4行目から第3段落348頁10行目まで

## 2 キーワードないしキーセンテンス

「唯、積極的に限定することのできない具体的一般者に於てあるものが部分的に限定せられた時、一種の連続として時に於てあると考へられるのである、物理現象とはかゝる意味に於ての連続に外ならない。」(347, 2-4)

## 3 考察ないし問い

「物理現象」において、「時に於てあるもの」を主語として「性質的述語」が付加されるとき、この主語となるものは、「時の一般者に於てある」のではなく、「時を包む一般者に於てある」とされます。

そして、「時を包む一般者に於てある」とは、「変ずるもの」、あるいは「内容を有つた時」と同義です。

このとき、「物理現象」を単に「時に於てあるもの」とするならば、「物理現象」において、「変ずるもの」をどのように考えたらいいのでしょうか。

---

\*1 『西田幾多郎全集 第四巻』第三刷（1979年）岩波書店